

# 直播コシヒカリの中期深水管理

## 1. はじめに

近年、生産組織や認定農業者の経営規模拡大に伴い、省力・低コスト技術として湛水直播栽培が急速に増加しています。しかし、湛水直播では、生育中期の茎数が過剰となり収量品質が不安定となることや、雑草抑制が困難であることが課題となっています。

本技術は、中期深水管理でイネ生育制御と中期雑草発生抑制を図り、直播コシヒカリの収量、品質を安定、向上させ、除草剤散布回数を削減します。

## 2. 中期深水管理で、 収量・品質を安定、向上させる

生育中期（イネ葉齢5～6葉期から9葉期）に水深10cm程度の深水に管理することで、最高茎数を抑制し、有効茎歩合を高めま（図1）。

穂数はやや減少しますが、一穂粒数が増加し、倒伏もわずかに軽減されます。その結果、収量、品質は慣行の水管理と同程度か、やや向上します（表1）。

表1 中期深水管理による生育および収量（H19～H22平均）

	深水区	慣行区
稈長 (cm)	99.9 ± 6.3	98.0 ± 7.0
穂数 (本/m <sup>2</sup> )	372 ± 28	413 ± 48
一穂粒数 (粒/穂)	88.1 ± 3.7	83.4 ± 2.6
全粒数 (百粒/m <sup>2</sup> )	328 ± 21	343 ± 31
倒伏程度	3.1 ± 1.7	3.8 ± 0.8
精玄米重 (kg/10a)	550 ± 56	545 ± 46
登熟歩合 (%)	82.5 ± 9.8	81.8 ± 8.7
千粒重 (g)	20.8 ± 0.7	20.9 ± 0.6
良質粒割合 (%)	68.2 ± 2.9	65.6 ± 6.4

## 3. 中期深水管理で、 雑草を抑制する

除草剤はイネ1葉期に一発除草剤を1回施用します。中期深水管理により、生育中期の雑草発生生育を抑制し、その結果、収穫期の雑草量も減少させることができます（図2）。

福井県の慣行湛水直播栽培では除草剤2回散布が一般的ですが、この体系により除草剤1回散布で十分な除草効果が得られます。

### 【中期深水管理技術の留意点】

- ・ 茎数が多くなりがちな地帯に適する技術です。慣行浅水管理でも茎数不足する圃場や、漏水の激しい圃場では、中期深水管理を実施しません。
- ・ 稲体健全化と倒伏防止、コンバイン収穫の地耐力確保のため、中干しは確実にを行います。茎数抑制の効果は劣りますが、天候不順な場合には9葉期よりやや早めに深水処理を終了させます。

・ 中期の深水管理では、初期に発生したヒエなどの雑草を枯殺することはできません。1回目の除草剤施用が遅れないよう適切に散布します。散布10日後頃にヒエ等の雑草残草状況を確認し、除草効果が不十分で残草などがあれば、追加で2回目の除草剤を散布します。

また、中干し以降に発生する雑草については、慣行栽培と同様に対応してください。

（農試 作物G 見延敏幸）

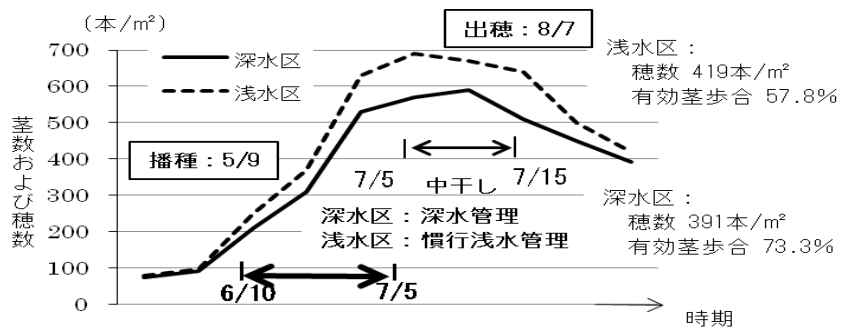


図1 中期深水管理による茎数の推移（H19～22傾向値\*）

\* 年次により調査月日、調査回数が異なるため、傾向値として図示する。

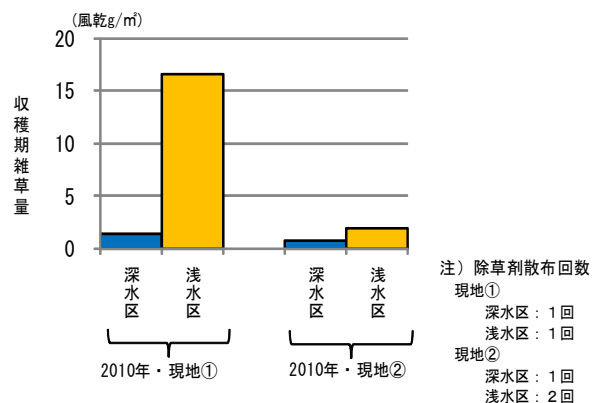


図2 収穫期の雑草量

注) 除草剤散布回数  
 現地①  
 深水区: 1回  
 浅水区: 1回  
 現地②  
 深水区: 1回  
 浅水区: 2回